

長野県のがん登録精度に関する考察



P1-5

田中 百合子¹⁾ 赤羽 昌昭¹⁾ 松原 真紀¹⁾ 岩下 由布子¹⁾
小泉 知展^{1) 2) 3)} 遠山 尚子⁴⁾ 宮島 有果⁴⁾

1) 長野県がん登録室 2) 信州大学医学部附属病院 信州がんセンター
3) 長野県立木曽病院 4) 長野県健康福祉部保健・疾病対策課

1. 目的

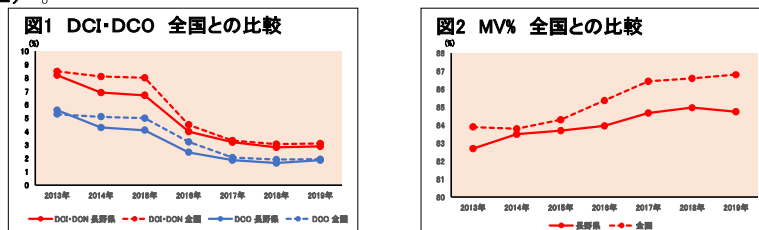
全国がん登録が開始されてから7年が経過し、法制化による届出の義務化により、がん登録の「完全性」およびデータの「質」は、ほぼ担保されるようになったといわれている。そこで、今回、長野県の全国がん登録情報の精度を検証し、精度向上が十分であるかについて考察を行った。

2. 方法

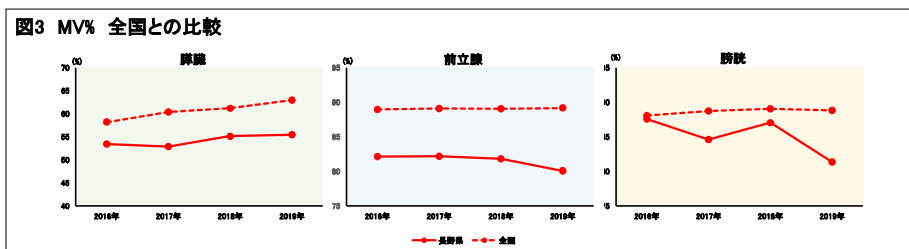
2016年から2019年までの長野県と全国の登録精度指標(DCI、DCO、MV%)について全部位および主要部位別に年次推移を分析した。さらに、精度が全国と比較して劣っている指標について、他の指標との関連からその要因について考察した。

3. 結果

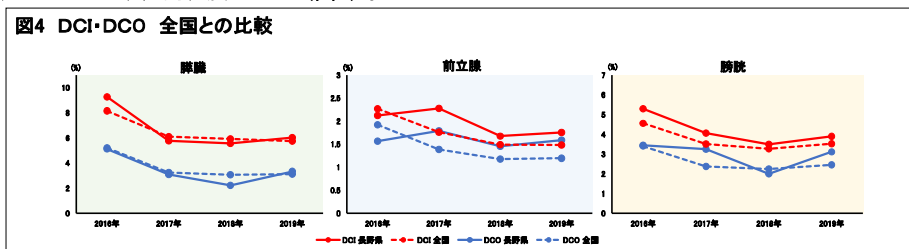
2016年から2019年までの長野県のがん登録精度の推移をみると、全部位のDCIおよびDCOはともに低下傾向であり、全ての年ですべて全国値を下回った。一方、長野県の全部位のMV%は全年とも84~85%と高精度で推移したが、全国と比較して上昇傾向が弱く、値は全年とも全国値を下回った。地域がん登録時代の2013年からの年次推移をみるとDCIおよびDCOは長野県、全国ともに全国がん登録開始初年の2016年に前年と比較して大幅な低下がみられた後、各々3%および2%前後で安定的に推移したが(図1)、MV%は全国では全国がん登録開始初年に大きく上昇した後、継続的に上昇傾向であったのに対し、長野県では全国がん登録開始後も大幅な上昇傾向はなく直近のデータは横ばいであった(図2)。



全国と比較して精度が劣っていたMV%について部位別にみると、特に全国との差が大きかったのは膵臓、前立腺、膀胱であり、それぞれ平均で6.4%、7.5%、3.5%全国値を下回っていた(図3)。



同部位のDCIおよびDCOをみると前立腺、膀胱ではDCI、DCOともに全国値を上回る傾向であったが、膵臓では、DCI、DCOともに全国と同程度であった(図4)。



精度指標のうち、DCIは届出漏れを反映する「完全性」の指標、DCO、MV%はともに登録されているがんの「診断の信頼性」の指標である。DCOは遡り調査の積極的な実施により低下させることができる。

DCI、DCOの状況より前立腺、膀胱では届出漏れや遡り調査回答の不足がMV%に影響を与えている可能性を示唆した。

一方、膵臓では届出漏れや遡り調査回答の不足の影響は考えづらく、届出情報の正確性、県内の膵がんの罹患、死亡状況の特徴も含めて要因について考察する必要性を示唆した。

4. 結論

長野県全国がん登録の精度指標はDCI、DCOともに全国を下回り、完全性、信頼性ともに高いことが分かった。一方、MV%は高精度を保っているものの全国と比較して低い部位も多く、今後その要因についてさらに分析し、対策ができるものについては精度向上につなげていく必要がある。

開示すべきCOIはありません